

# 平和フォーラム 2023 ピーススクール (第4回ピーススクール)

2023年11月17日(金)~19日(日)

## 報 告 集



主催：フォーラム平和・人権・環境（平和フォーラム）

# ピーススクール日程

	時刻	時間	講座名	講師
1日目 17日 (金)	13:00 ～ 13:45	45分	主催者あいさつ・アイスブレイク	
	13:45 ～ 15:30	135分	①「私たちの憲法～権力の暴走を許さず～」 ビデオ上映・ワークショップ	伊藤 真 (弁護士)
	15:45 ～ 17:50	125分	②「政治と若者～政治を私たちの手に～」 講演・ワークショップ	辻元清美 (参議院議員)
	19:00 ～ 20:30		夕食交流会	

【BumB 東京スポーツ文化館への移動について】 11月18日(土) 8:30 ホテルロビー集合  
電車:「麹町」―「新木場」(東京メトロ有楽町線 新木場方面) 9駅(約19分)

2日目 18日 (土)	9:30 ～ 10:30	60分	③「第五福竜丸物語～核兵器廃絶の祈り～」 講演・質疑	市田真理 (第五福竜丸展示館 学芸員)
	10:40 ～ 12:30	110分	④核と人類は共存できない～原水禁運動の歴史～ 反核の父・森瀧市郎初代議長に学ぶ 講演・ワークショップ	金子哲夫 (原水禁共同議長・ 広島県原水禁代表委員)
	12:30 ～ 14:00	90分	昼食・第五福竜丸展示館見学	
	14:40 ～ 15:40	40分	⑤「外国人の人権と入管法改正」における今後の 課題～どうして奴隷労働と言われるのか～外国人 技能実習制度～ 講演・質疑	坂本啓太 (全統一労働組合書 記長)
	15:20 ～ 15:45	25分	⑥民族教育と私 ―差別に立ち向かう民族教育の意義― 講演・質疑	李侑娜 (朝鮮大学校4年)
	16:00 ～ 16:55	55分	⑦LGBT・SOGIの基礎と労働組合の期待されること 講演・質疑	神谷悠一 (LGBT法連合会 理事・事務局長)

	16:55 ～ 17:55	60分	人権問題 ワークショップ
	17:55 ～ 18:00	5分	総集編：ワークショップの説明
	18:30 ～ 20:00		夕食交流会

3日目 19日 (日)	9:00 ～ 11:00	120分	総集編：ワークショップ（ディベート）	
	11:10 ～ 11:50	40分	⑧「未来は『ワタシ』が決める、そのために考えること」 ----- 質疑	藤本泰成 (原水禁共同議長・平和 フォーラム代表)
	11:50 ～ 12:25	35分	閉講式	
	事務連絡			

ファシリテーター：谷 雅志（平和フォーラム）

## 平和フォーラムピーススクールとは

どの組織においても、平和運動の後継者育成の問題は喫緊の課題となっています。これからの平和運動を担っていく世代は、安保闘争を歴史の授業で習い、学生運動にもかかわることがなかった若者たちです。これは、平和フォーラムに関係するすべての組織の問題であり、後継者育成は避けて通れない問題です。そこで、地域や職種の枠を超えて若者が集うことができるスケールメリットを生かし、平和・人権・環境問題などへの若い世代の関心を高める取り組みとして、2018年から「ピーススクール」を開催しています。2019年に第2回、コロナ禍を経て2022年に第3回を開催し、2023年で4回目の開催となりました。社会に存在する様々な課題を丁寧に伝え、共に考える場となるよう座学（講演）のみならず、



参加者同士の対話を重視するグループワーク、五感を活用して体験するフィールドワークを通して、平和運動や原水禁運動、人権課題などの現状や課題を学べるものです。その一方で、同世代のつながりをつくる場であることも企画の意図に含まれており、「学びの場」であると同時に「つながりの場」になることを願って参加者同士で対話する場面を多く取り入れています。

## 平和フォーラム 2023 ピーススクール（第4回ピーススクール）概要

2023 ピーススクールは、全国各地から 32 団体の 41 人（うち女性 5 人）が参加し、11 月 17 日（金）～19 日（日）の 2 泊 3 日で開催しました。初めに、司会者からの全体日程の紹介、主催者あいさつのち、アイスブレイク、グループワークを含めた講座が行われました。また、夕食交流会では、初日は班ごとに着席、2 日目はくじ引きで席を決め、参加者同士の交流の輪を広げました。2 日目には、フィールドワークとして「第五福竜丸展示館」を見学しました。最終日には、ワークショップの総集編ということで「安全保障に関する防衛力の強化」「原発推進政策」「労働組合の政治活動・平和運動積極参加」をテーマに、賛成・反対に分かれ、ディベートを行いました。本来の自分の考えと違う立場で主張を展開することは大変だったようで、時に笑いも起きながらのやり取りが続きました。閉講式は堅苦しくせず、参加者全員が車座になって座り、一言ずつ感想を伝えあって、全日程が終了しました。なお、一部参加者はピーススクール終了後に議員会館前まで移動し、「19 日行動（総がかり行動実行委員会主催）」にも参加して、より実践的に「平和運動」体験しています。

### （アイスブレイク）ファシリテーター・谷雅志／平和フォーラム副事務局長

まずは参加者の緊張をほぐすことを目的に、初日から参加の 36 人で、レクリエーションを行いました。声を出さずに、身振り手振りだけで誕生日順に一列に並んでいきます。初対面ながらも笑みをこぼしつつ、順番に並びました。その列を元に向かい合う列を作り、向かい合った者同士で、簡単な自己紹介をしていくことを数回繰り返しました。

### （憲法）伊藤真さん／弁護士

政府は、国民が気づかぬうちに憲法を変えてしまうようなやり方で改憲しようとしているというイントロから始まり、憲法を変えることは国の形を変えることであると、安保 3 文書の改訂など、様々な例えを用いて解説がなされました。



また、過去の世界大戦を例に、戦争ではプロパガンダなどが用いられ一番初めに「真実」が犠牲になること、軍事力による抑止（抑止力）では戦争を止めることはできず、「為政者（権力者）」にブレーキをかける憲法が重要であり、それが立憲主義であることが歴史的な経緯をたどりながら説明されました。現憲法では、13 条の個人の尊重・幸福追求権を根拠に、多様性を認め合うことが重要であり、他者との共存もまた立憲主義の根幹であると訴えました。

憲法前文にある崇高な理想へ向け、日本のことのみではなく、国際社会で行動することが必要だと講演をまとめました。

### （政治）辻元清美さん／参議院議員

在日の人が多い大阪で育ったことで、差別を「社会問題」だと意識することが活動の根底にあるなか、1980 年代「ピースボート」を立ち上げました。「ピースボート」は、運動を楽しく、持続可能的に社会運動に取り組めるように、事業として成立させ、経済のあり方も変えながら社会問題に取り組んでいきました。

また、今現在の政治の課題として、改憲問題、大阪万博、政府補正予算



等を取り上げ、経済の衰退は政治の責任であり、政治的変革ができないのは利権の存在があるからだ」と強調しました。あわせて、ジェンダーギャップ指数でも表される日本の女性の家事負担率の問題、小泉政権時代の派遣労働問題、防衛政策・安全保障問題を例に挙げながら、「自浄作用のある政治」、緊張感のある良い政治にするためにも、政権交代の必要性を訴えました。

講演後には、班ごとに記念写真を撮り、短時間ながら参加者との交流も図りました。

### （原水禁運動）市田真理さん／第五福竜丸展示館学芸員

原水禁課題の中でも、特に第五福竜丸の被ばくの問題に焦点を当て、1946年7月太平洋の（アメリカ）マーシャル諸島「ビキニ」環礁で、何が起き、どんな被害が起こっていたのか、第五福竜丸の保存運動のきっかけから、乗組員の久保山愛吉さんの思い（「原水爆の被害者は私を最後にしてほしい」）にたどり着くように、ストーリー建てで解説しました。

第五福竜丸が被ばくしたビキニ湾での核実験は、日本への原爆投下の1年後から1958年まで行われました。マーシャル諸島ロンゲラップ島の人々、第五福竜丸の乗組員23人が被ばくしたにも関わらず、そのことはすぐには公表されず、まるで人体実験のように扱われました。「被ばく者」は被害者であるにもかかわらず、差別や偏見に苦しみ、口を閉ざしてしまった。しかし「伝えていかなければ、なかったことになってしまう」、だからこそ、私たちは伝え聞くことが重要であると強調しました。

### （原水禁運動）金子哲夫さん／原水禁共同代表・広島県原水禁代表委員

原水爆禁止日本国民会議（原水禁）初代議長の森瀧一郎さんの「核と人類は共存できない」という核絶対否定の考え方を基本に、原水禁運動の柱となる部分について提起しました。

核兵器禁止条約（TPNW）の6条、7条に盛り込まれた「核被害者の救済」の視点や、核被害者やヒバクシャが「差別的構造」の中で一番弱い立場にあること、「被爆者の体験した話をもっと聞きたい」として1955年に始まった原水爆禁止世界大会、原水禁運動の原点が被爆の実相（アメリカのプレスコードにより伏せられていた実相）を求めたことであったこと、核の「平和利用」として国際的に認められる原発の問題など、順に解説しました。



「命尊し」という言葉で表されるように、命に勝るものはないという考え方が「ヒロシマの心」であると訴えました。

### （人権問題）坂本啓太さん／全統一労働組合書記長

日本における外国人は「ニューカマー」と「オールドカマー」に分類することができ、「ニューカマー」と言われる外国人労働者の人権問題について提起しました。

日本の在留外国人登録数は約322万人で、そのうちの半数は不安定（技能実習制度等）な状態で日本にいます。滞在資格のない「オーバーステイ」という状態は確実に減ってきているものの、日本に定住させないように在留資格は細分化され、様々な問題が生じています。さらに、日本へ働きに来た人の中には、ブローカーの仲介を経た際に、巨額の借金を負



わされたり、家族を人質に取られたりする場合があります。「技能実習制度」は、不正行為や人身売買が横行し、国連人権機関からも指摘されるなど、多数の問題点をはらんでいます。

外国人労働者を雇う側が一概に悪いのではなく、制度そのものが差別を生み出し、差別をする人に変えてしまうという点を強調し、技能実習制度の抜本的な改廃を訴えました。

### (人権問題) リ・ソナさん／朝鮮大学校4年生

生きづらさを抱えながらも、日本に住んでいる朝鮮人として生きていくという強い気持ちを、生い立ちや社会制度、社会での出来事を交えながら語りました。朝鮮学校に通い、自分たちの言葉や文化があると気づいた一方で、高校無償化から朝鮮学校は除外され、「学ぶ権利」や「人権」について考えるようになったこと、「外交・政治問題」を理由に教育の機会均等が失われていることを知りました。そして、先輩たちが権利を求めて起こした裁判の不当判決を、「在日朝鮮人としての私を否定する」判決だと感じたことなどが語られました。

植民地主義が根強く残る日本政府のやり方に対し、奪われた尊厳を取り戻すためにも、強い思いでたたかっていくという決意を伝えてくれました。



### (人権問題) 神谷悠一／LGBT法連合会理事・事務局長

はじめにLGBT法連合会という団体の設立趣旨について話がありました。

人口の8～10%程度はLGBT+であるという調査結果があり、自分の周りにいないのではなく、隠しているのかもしれない、と身近な問題であることを提起しました。よく勘違いされることで、「性的指向」「性自認」は、自分の意思で変えられるものではなく、まして「治療」の対象になるものでもありません。そもそも多数派が、わざわざ「男性が好き」とか「女性が好き」などを言うことはなく、少数派に対して、「カミングアウト」を求めることが正しいわけではない。自らの性を開示したいと思った人がいて、それを受けたときには、決して驚くことなく、受容することが大切であることを語られました。当事者は社会的体面を保つために嘘をつかざるを得ないこと、それがコミュニケーションの疲れの原因になるなどの実例を交えて、法体系の整備などの必要性が訴えられました。また、受容する気持ちを互いに持つことが重要であることを学びました。



### (総論) 藤本泰成／原水禁共同議長・平和フォーラム代表

ピーススクール最後は、憲法・政治・原水禁・人権問題全体にかかる総論的な講演となりました。

歴史を読み解きながら、戦争へ至った経緯、「生きづらい時代」を反映した社会現象（事件）が起きていることを引き合いに出し、平和主義や基本的人権の尊重の重要性を提起しました。あわせて、戦後の民主化で労働組合が出来たこと、労働組合が民主的な組織であること、社会正義のために闘う存在であることなどを解説しました。

また、具体的に憲法の条文や政治家の発言を用いて改憲論議の危険性について訴え、これからの平和運動をどのように取り組んでいくべきか、参加者それぞれが考えるためのたくさんのヒントを含む内容となりました。



# 参加者報告

## 第1グループ

フォーラム岐阜 林 直孝

私は、今回平和フォーラムには初めて参加しました。今回受けた講演内容について、私個人が触れる機会はなかったため、非常に貴重な体験ができました。二日目の第5福竜丸物語から講演を受けました。水爆実験の恐ろしさから、核廃絶の必要性、また、その核廃絶のためにしてきた原水禁運動の歴史を知り、ウラン採掘場をはじめとした多くの被害者がいることを知りました。次は、外国人労働者の権利について、続いて、朝鮮学校の高校無償化が政治的側面から取り消されてしまい、権利から除外されていることを学び、この原因に加え、根本に歴史的背景があること、また、LGBTQ+問題は、多様性について不思議を思わず、マイノリティであることを意識しない感覚を作っていくことが大切であると感じました。いずれにしても、被害を受けたり、辛い思いをしていたりする方々の感情を理解し、今回のような活動を通して理解を深めていくことで解消に近づいていく可能性を感じられました。今回得たことを日常に少しでも行かせられればと思います。ありがとうございました。



北海道平和運動フォーラム 櫻庭 絢香

3日間のピーススクールは私にとって大変有意義なものでした。1日目は弁護士の伊藤真さんと参議院委員の辻元清美さんのお話を聞きました。現行の憲法の意義を再確認し、改憲への動きに歯止めをかけるためには、いかに戦争が惨たらしいものであるかという事実を広く伝えていく必要があることを感じました。2日目は新木場の夢の島にある第五福竜丸を見ました。原水爆実験について詳しく話を聞くのは初めてで、近くで被曝された船員の方々が体験したこと、近く住んでいた人たちが実験動物のように扱われたこと、太平洋の広い地域とそこに住む魚が汚染され、食が脅かされるなど、漁に携わる人たちが本当は被害に遭っているのに、風評被害や差別を恐れて沈黙せざるをえなかったということ聞き悲しくなりました。午後には外国人技能実習制度、朝鮮学校、LGBTQ+に関する講義を聞き、マイノリティと言われる立場の人たちにとってはまだまだ生きにくい状況であることを学びました。最終日のディベートは初めての経験でしたが、グループで協力できて楽しかったです。このピーススクールで得られた経験を多くの人に伝えたいと感じました。

三多摩平和運動センター 須田 佳樹

3日間のピーススクールを受講し、過去の戦争の過ちをまた現在繰り返していること、自民党政権がいかに憲法を改悪の道へ進めていこうとしているか説明など受けながら、軍事力増強に進んだとしても市民や国民の被害は防ぐことはできない上に、何も解決できないことなどを学習しました。77年間戦争をし続けた戦前の日本は、今まで78年戦争しない・できない国であったのに、集団的自衛権の行使や反撃能力などを持つといった自民党政権を私たちはNOを訴え続けることが改めて必要だと感じました。そもそも私たちが戦争をする意思があるのかという事を問いながら、すでに憲法を無視しつづけている権力の暴走を許さないということ知り、戦争の現状を学び、反対の声を挙げ続けることの大切さを学び

ました。全国から集まったなかまと共に、現在の日本の危機について学習をできたことに誇りに思います。たった3日間ではありましたが、様々な事を学んだ内容は地域や組織でこの現状を打破し、将来に希望を持ち続けるためにも運動を続けていきたいです。これを機にさらに組織強化に取り組んでまいります。



#### 広島県平和運動センター 堀井 大樹

今回初めてピーススクールに参加させていただき、参加する前は他人事と思っていましたが、講座を受けて、自分自身が困ってなくても誰かが困っており、自分事として物事を考える事が何より大事な事であると改めて感じる事が出来ました。憲法や外国人技能実習生の事、在日朝鮮の問題など、普段は関わる事があまりない問題や課題についてもピーススクールで関心を持つ事ができ、今後の組合活動や自分のためになる講座ばかりでした。今回のピーススクールを通して、私自身の知識の無さを改めて感じましたし、今後も自分の単組に持ち帰って、学んだ事を共有し、今後を担う若い世代として積極的に学習して行きたいと思いました。3日間と短い期間でしたが、色々な産別や単組の方々と交流を深める事が出来、この出会いを大切に今後も組合活動に携わっていきたくと思います。3日間、貴重な時間を過ごせました。また機会があれば、参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。

#### 長崎県平和運動センター 西田 大輔

被爆地ナガサキの人間として、子どもの頃から平和学習や平和への願いを考え続けて日々を過ごしていましたが、まだまだ知らないことや色々な視点から平和との向き合い方や考え方を学ぶことができ大変有意義な時間を過ごすことができました。また、大半がグループワークで限られた時間の中でみんなの意見を出し合いまとめて、発表するのが難しかったですし、内容が普段あまり学習する機会のない朝鮮学校やLGBTQの事もあったため、短時間での学習と考えの共有からその班での結論を捻り出すことの大変さ、年代も産別もバラバラな中に団結することの難しさや大切さを学びました。第五福竜丸についても私はほとんど知識が無い状態で今回学習しフィールドワークで実物の見学をさせていただき、やはりまずは知ることが大切だと痛感しました。これまでヒロシマ・ナガサキ、沖縄戦については子どもの頃から学習し、反核平和の日リレー等で常に平和を願うための活動について身近なものでしたが、朝鮮学校の問題など被害者日本だけではなく、加害者日本のことも学習し、私たちが当たり前だと思っている今の平和を維持し、個人としての尊厳を守り、これから生まれてくる人たちが安心して暮らし続ける核も戦争もない平和な世界にするため、まずは知ること、そこから行動し連帯し、団結に結びつけられるような活動をしていくことを、ピーススクールを通じて決意しました。



#### 全日本水道労働組合 大高 貴文

本講座は伊藤誠弁護士の講義に始まり、平和や人権のため日々戦っておられる方々の考え、活動の実績を直に聴き、憲



法や市民の在り方、現在の政治が抱える問題、平和への思いを深く学ぶことができましたが、最終日のディベートが一番参考になったかと考えます。当日は原発推進に賛成と、あえて組合の考えと逆の立場に立ち討論することで、なぜ相手はそういう考えに至ったのか理解することができるのだと学びました。自身の考えを否定されることや利益に反することは少なくとも私は嫌であり、恐らく大多数の方はそう感じておられると思います。そういった事柄から生まれる溝を埋めるために自分自身何ができるのか考える、講師であられる辻本清美議員がおっしゃられた武力ではない対話による平和の実現に欠かすことのできない精神ではないかと考えます。

#### 岡山県平和・人権環境労組会議 玄馬 誉士

具体的な数値や政府やメディアが報じない実態を伝えていただいたことで、今まで漠然としていたことが明確になり、平和についてより考えが深まりました。また、具体的な数値や事実のみならず思いも伝わり、大変貴重な機会となりました。特に伊藤弁護士の講義では、国民が気付かない間に日本が戦争をできる国に変わっていった現状を改めて感じ、少しずつでも行動をしていかないといけないと思いました。また、外国人技能実習生の実態や在日の方に対する差別など、現代でも残る差別、とくに政策的な差別問題について日本国民として、見て見ぬふりをするのではなく、声をあげていかないと改めて感じました。くわえて、今回の集会では、第五福竜丸記念館でのフィールドワークやディベートもあり、参加者同士の交流の時間もしっかりととっていただき、大変貴重で有意義な時間となりました。今後単組や産別等で学習会の際等、しっかりと今回学んだことを伝えていきたいと思います。

## 第2グループ

#### あいち平和フォーラム 小島 一輝

平和と政治の現状について改めて考えさせられました。また、今後についてもこのまま何も行動せずにいては政府にいいようにやられてしまうのではと思い、広く仲間に伝え、仲間を増やす取り組みをしていきたいです。人権についても在日コリアンの問題は非常に身近に感じていますし、在日コリアンの皆様は誇りを持って過ごしていることを重々承知しております。自分に出来る支援があれば何でもお手伝いしたいです。来年も企画されるのであれば、誰かに是非行っていただきたいと思いました。

#### フォーラム岐阜 矢野 竜寛

私は20代で全くニュースを見ないため今日日本がどのような問題があるかを理解していませんでした。自分には関係ないからどうでもいいと思っていました。しかし、私たちが何も言わないから何をしてもいいといわんばかりに無駄なお金をどんどん使ってトマホークや使えない無人機によって日本の借金が増えてそのお金が国民の負担になっていることにとっても驚きでした。ネットニュースなどで流



れることは増税などで実際なんのために増税してるかすら理解していませんでした。このようなことを知ってやるべきことはまずは自分がよく現状を知ることなのでニュースを毎朝見るようにしました。また、SNS の情報にだまされないよう定期的に集まり正しい情報を多くの人と共有することが大切だと感じました。今後の活動はピーススクールに参加して多くの形との結束力を深めてそれを周囲に伝えていこうと思います。このような集まりがあればまた参加させてください。

#### 広島県平和運動センター 農宗 巧規

私は今回が初めての参加でしたが、ピーススクールに参加したことで人権や平和について学び直すことができ、それらについて考えを深めるきっかけを得ることができました。私の出身地は被爆地、広島です。毎年のように平和学習という授業があったり、被爆者の方を招いて生の声を聞かせてもらったりと、平和について考える機会が多かったと自負しておりました。けれども講師の方のお話や資料を読んでいくにつれ、具体的な戦争の歴史や他県においての被爆の実際など、自分の知らない事の多さに驚きました。また自分が子供を持つ親となった今では、戦争とは過去の物語ではなく、自分の子供が巻き込まれるかもしれない脅威なのだと実感させられました。これから先の未来で子供たちが笑顔で暮らせるよう、自分たちのできることに取り組んでいこうと思います。



#### 全日本水道労働組合 長谷川 雄士

今回、平和フォーラム主催第4回ピーススクールに参加して、憲法、政治、核問題、人権等多岐にわたった問題を学ぶことができた大変有意義な3日間でした。このような課題で3日間集中して学習したことは今までなく、参加させていただきとてもよかったです。

この中で、「外国人の人権と入管法改正」や「民族教育と私」といった講座で、外国人の技能実習生や在日外国人の問題を学び、現在の置かれている状況や問題点など普段の生活では知ることができないことを学べてとても参考になりました。特に在日外国人の学生本人自らの体験の話は、現状を知るうえで非常にわかりやすかったです。また、フィールドワークでは展示物である第五福竜丸の見学及び核兵器廃絶のための原水禁運動の話がありました。その中で、被爆者の声や核実験による見えない被爆の状況を聞き、核実験の禁止や核兵器の一日も早い廃絶をしなければいけないと改めて考えさせられました。

全体を通して、グループでの意見交換やテーマを決めてのディベート討論等でいろいろな考え方や意見を聞くことができ、大変勉強になりました。また、普段話すことがあまりない、他の産別の方との意見交換や交流もあり大変貴重な時間でした。

今後、組合の活動のなかで学んだことを生かしつつ、他の組合員にも積極的にピーススクールに参加するよう話したいと思います。

#### 北海道平和運動フォーラム 常富 雅人

この3日間の参加を通じて、全国から様々な職種や世代の方々と共に、講演やグループワークを経験し、平和、人権、民主主義に関する知識を深めることができました。普段は中学校の英語教員として働いており、平和や人権、民族教育に以前から関心を持っていましたが、社会人になってからは忙しさに追われ、なかなか自由に学ぶ時間が取れませんでした。しかし、今回のピーススクールに参加すること

で、非常に充実した 3 日間を過ごすことができました。各講演はどれも素晴らしく、目から鱗の内容でしたが、特に弁護士の伊藤真さんの講演が印象的でした。戦争や軍力への依存の危険性や、憲法の価値、立憲主義の重要性などについて、具体的な例を交えて分かりやすく説明してくださいました。また、一人ひとりの国民が「自立した市民」として、政治的な意思決定に関与し、意見を表明する重要性を強調し、私はそれに深く共感しました。ただ、ここで学んだことを「自分の言葉で説明する」ためには、まだまだ学ぶべきことがたくさんあると痛感しました。このピーススクールでの学びを基盤に、「どのように他人を巻き込むか」という考えをこれからも深めていきたいと思います。教員としての立場から、平和な世界の実現に少しでも寄与できるように努力を重ねていきたいです。

### 三多摩平和運動センター 太田 薫

単組事情もあり、2 回目の参加をさせて頂きました。講義内容のテーマは基本的に同じでしたが、各講師の方々の中には昨年共にピーススクールを受講した方がいらっしやったり、朝鮮学校の学生さんもいらっしやったりと改めて学習と交流ができました。多岐にわたる分野での学習が組み込まれており昨年に続き、今を生きる私たちにとってどれも必要とされる課題だと感じました。

最終日は、去年と同じく「安全保障に関する軍力の強化」「原子力発電推進政策」「労働組合の積極的な平和運動・政治への参加」という 3 つの題目で賛成・反対、6 つの班をそれぞれ割り振り、ディベートが行われました。労働組合の積極的な政治活動への参加を「反対」する立場の 6 班の主張にて「労働者が主体となって自主的に労働条件の維持改善その他経済的地位の向上を図ることを主たる目的として組織する団体又はその連合団体をいう。(労組法 2 条)」という一文を冒頭に述べ「(平和、政治活動を)しないとは言っていない、あくまで積極的ではない」と積極的という部分を強調した上で、団体交渉と平和運動の動員が重なった場合どうするのか？組合役員は当然団体交渉に行くのではないのか？という展開になり、一方的ではありませんが会場の拍手もそちら側が多かったです。3 日間の講義内容と日々の組合活動も含め、基本的な考え方は皆さんある程度同じ方向性だと思いますが、今回は特に 6 班の主張が簡潔で分かりやすく、またチームワークが良いのもあり、全体として主張に一貫性がありました。また、細かい事を言えば喋り方やタイミング、振る舞い方のイメージが良いと感じた人もいたのではないかと考えています。ディベートの感想としては去年とほぼ同じになってしまうのですが、人間という生き物は理屈では違う信念を持っていたとしても、実際にとる行動（拍手）は必ずしも一致しません。この事を再度、身をもって学びましたので、やはりまずもって単組に持ち帰り、いかにしてこれを応用すべきかと思っております。

## 第3グループ

### 日本教職員組合 廣瀬 翔一

今回のピーススクールで感じたことは大きく 2 つです。1 つめは、少しずつではあろうが弱者に寄り添う世の中になってきているであろうということ。2 つめは、それでも日本はまだまだ生きづらい世の中である、ということです。昔の労働者の立場とくらべると、現在は大きく、よい方向に変わったと言えます。男性の育児休業がとりやすい環境整備、LGBT に対する理解や当事者の話を聞く機会が増えたことなど、マイノリティに寄り添う考え方がずいぶんと世の中に広がっていると思います。一方で、理

解しないまたはしようとしらない人、ハラスメント行為をする人など、まだまだ課題があります。このような、転換期に来ている時に組合が発信していく、という意味で組合が果たしていく役割は大きいと感じました。世界情勢についても、日本は他国の動向を注視しつつも確実に「戦争できる国づくり」を一歩ずつ進めています。「新しい戦前」という言葉がピーススクールのなかでもありましたが、平和から戦争へ、という転換期に今、日本は立っています。皮肉なことに、育休の取得やLGBTの理解とは反対の意味での転換期です。しかし、この転換期に労働組合が果たす役割はやはり大きいと思います。世論は日本の「軍事費」強化に賛成が多いようですが、賛成している人は本当に戦争が何なのかわかっていないのか不思議でなりません。自分の家族などの身近な人は死なないと思っているのでしょうか。自分は兵隊にならないと思っているのでしょうか。戦争後に安心して生活できると思っているのでしょうか。国民よりも国を守るの方が大切だと本気で思っているのでしょうか。労働組合が果たす役割とは、組織の中で得た知識を組織外にまで広げて、本当にこのままでいいのかと、その人たちの意識を変えるまで世間に絶えず問いかけ続けることだと思います。

#### 自治労新潟県本部 加藤 謙

様々な集会や学習会があり平和運動に関して学ぶ機会が多いが、ピーススクールはその中でも学ぶべき事の多い学習会だと感じる3日間だった。

「政治・憲法」「反核」「人権」に関して学習したが、特に憲法についての学習が記憶に残った。講師の伊藤真弁護士が講演の中で「憲法9条を守ることが戦争の実態を知ること」と説いていた。誰もが戦争なんてしたくないと思っているのに改憲に賛成する人が一定数いる…。やはり戦争がおきた時の想像ができないのではないのか。今の平和な日本社会を維持するために必要なことを改めて考える機会だった。

年代の近い参加者たちと意見交換を行うことも貴重な機会だ。普段の生活で、「平和」や「政治」について話す機会があるだろうか？そんな話を切り出しても適当に流されることが多い気がする。しかし、こうした集会で真剣に話してみると各々が様々な意見をもっていることがわかる。また、真剣に話し合うからこそ親睦が深まる。

正直、参加する前は3日間も平和運動の学習をするということに重たい気持ちだったが、参加後には新たな仲間や知識を得られる、参加して良かったと感じられる集会だった。



#### 全日本港湾労働組合 斎藤 直道

今回初めてピーススクールに参加し、様々な講義を受け普段聞かない言葉や国内の政治をはじめ、経緯やその実態などを勉強し、「本当の平和とはなにか」「命、人権の大切さ」「今後自分はなにをしなければならぬのか」などたくさん考えさせられることばかりでした。また、自分の知識のなさを痛感しましたが、その分新たな発見を得ることができとても貴重な経験になりました。ディベートでは、賛成反対両者の意見や皆さんの話し方を聞き、言葉の抑揚ひとつで人を惹きつけることと、知識量が圧倒的に有利なことを感じ、普段から会話するにあたり工夫と知識をつけなければならぬと感じました。最後になりますが、組合活動をしていなければ出会うことのなかった他労組の方々とも意気投合し、楽しい3日間を過ごすことができました。築いた関係を今後も生かし情報交換や違う組合活動のきっかけ作りなどもっと交流を深めたいと思いました。また、勉強したことを組織に持ち帰り、自分はじめ若手

の成長に繋がるように頑張っていきたいとおもいます。平和フォーラムはじめ運営、講師の方々ありがとうございました。

#### 自治労新潟県本部 吉橋 淳也

「日本という国は急速に大きな変化が求められている」そう感じさせられる3日間であった。まず1日目の政治・憲法の講演についてだが、「戦争」というものが身近なものになってきているということに気づけた。憲法9条改正の恐怖、軍事費の増強がもたらす国民の負担増加・他事業の予算減、国が崩壊する方向に動いていることに政府は気づいていないのではと思った。そんな与党に対して、辻元議員の用の方々が国民のために野党として立ち向かっていることに改めて感謝を申し上げたい。憲法は国民が政府を制限するためにあるということに再認識し、国民の為に改憲を止めなければいけないと強く思った。2日目は今までの出張で1番内容が濃かった。第五福竜丸についての体験談や施設見学、外国人労働者の実態、在日朝鮮人である李さんの体験談など、どれも全く知らなかったが身近な問題をたくさん知ることができた。全てにおいて共通している事は「被害者は何もしていないのに加害者として扱われている」ということである。同じ日本人として恥ずかしいと思うことも多々あり、この現状を知らなかった自分に腹が立った。私がこの事実を知った以上、多くの人に伝えたいし共有して何かできることを探していきたい。例え小さなことでも。

3日目も半日であったが、内容が濃く充実していた。各講演で聞いた内容を元に初めてディベートを行ったが、とても考える力や伝える力が身につくなと思った。各問題を反対と賛成側の視点から見ること、見えてこなかった部分や気づけることが多くあったからである。また印象に残った言葉として「正義の反対は別の正義」という言葉である。反対・賛成どちらも異なる正義を主張している訳で、全否定するのではなくお互いを理解し合い、認識を深めることが話す上で大切なのだと気づけた。最後に3日間を通して充実していたことが率直な感想である。ここで得た知識を忘却するのではなく、職場を含めた関係者に共有していきたい。学んだことを風化させず、さらに広げていくことに務めたい。あと、これから福島で行われるという「フクシマ連帯キャラバン」であるが班員から色々聞かせていただいた。大変興味があるため、ぜひ自治労新潟県本部に動員要請をしていただきたい。

#### 埼玉県平和運動センター 鈴木 裕也

平和について、本当の豊かさについて、持続可能な社会についてと、大切なことを考えることのできた今回のピーススクールに感謝しています。平日仕事をしていると、そのようなことを考える暇も与えられず忙殺されている毎日です。私たちが何のために身を粉にして働き、どんな世界を目指していきたいのかを考えさせない社会の中で生かされているのだと感じています。目先のことにとらわれて未来のことを見ず、自分たちのことばかり考えて、遠い世界の人のことを思いやれずにいるような気がします。そんなようなことに気づかされました。私は正直、日本国憲法について懐疑的になっていた時期もありました。日本を支配したGHQの意図でつくられた憲法は、やはり私たち日本に住むものの手で作り直さなければいけないと考えていました。しかし、今の政治下では、そうは言うてはいられません。憲法改正となれば、人々をまた力で支配する社会がつけられることになるでしょう。いま改めて日本国憲法の崇高さを学びました。ピーススクールを経て、私もこの日本国憲法を大切に守っていきたいと思い、私にできる活動を続けていきたいという思いが高まっていきました。

#### あいち平和フォーラム 吉倉 雅斗

まず、このような機会にお招き頂き、また開催にあたりご尽力くださり、感謝申し上げます。若者の政治離れと言われる中、その該当者である私は、まさにどの講演も青天の霹靂でした。政治に無関心でいられても、無関係ではられない、本当に心からそう思えました。帰宅後はすぐ今回の出来事を家族に伝えました。伊藤弁護士を始め、どの講演も心に訴えかけるものを感じ、ワークショップやデ



イベートなども交え、1 つも退屈することなく取り組めたことは、講師や運営の皆様のお陰だと思えます。そして何より、このような場でしか出会うことの出来ない、友人に巡り逢えたことは、私の何よりの財産です。福島県勤務の方が今度、フクシマ連帯キャラバンを企画運営されるみたいなので、機会があれば必ず参加したいと思います。更なる「学びと交流」を深め個人、日本、そして世界に訴えかけられる様な人材になるよう努めてまいります。この度は本当にありがとうございました。

#### 岡山県平和・人権環境労組会議 アンシュマン ルチア

印象に残ったものとして、初日の憲法と政治の学習では、憲法の意味をあらためて学ぶことで、国民が憲法を守らせる事の大切さを知ることができました。いざ戦争が始まってしまった時、自分は戦争をしたくなくても、加害者側になる可能性もあり、戦争後にも後遺症で苦しむ未来が待っているのであれば、絶対に戦争を起こさせてはならないと思いました。また、実際に第一線で活躍されている辻元議員から、普段は聞けない政治の実情を直接聞くことができ、いかに自分がいまの政治を理解できていないのかを再確認することができました。次に、2 日目の午前中には、核実験の実態や、実際の被害の話から、非人道的な事が平気で行われていただけでなく、今もなお核を盾に戦争が続いている事に恐ろしさを感じました。また、午後からの外国人技能実習生の実態の映像は想像以上に酷く、非常にショックでした。もっと実態を周知し、改善が図られるべきだと思いました。その他、3 日間で非常に多くの事を学び、とても良い経験になりました。運営の皆様には感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 第4グループ

#### 全日本港湾労働組合 寺澤 大知

今回私はピーススクールに初めて参加しました。日程は2泊3日です。内容は憲法や政治、人権問題など様々なお話をしていただきました。

色々な講座を通して感じたことは今回学んだことをどのようにして次に活かすかということです。日本は今、国民の無関心をいいことに様々なことを都合のいいことに変えようとしたり、隠そうとしたりしています。日本を良くするのは国民一人一人だと思います。そのために歴史を学び、日本の現在を知り、今後どうしていくべきかを考えなければならないと思います。しかし今回学んだことをまったくの

無関心の人に伝えることは難しいと思っています。そういう人はどうすればいいか考えた時、言葉は悪いのですが強制でもいいのでこういう場に参加してもらうしかないと思います。それが無関心を脱出する 1 番早い方法だと思います。そして関心をもってもらうことができればより日本はいい方向へと行くと思いますし、こういう場もより価値が上がっていくと思います。自分も今回学んだことを活かせるように自分に出来ることをしていきたいと思っています。



#### 徳島人権・平和運動センター 田中 理江

長いようで短かった 3 日間、全体を通して学んだ事は、戦争しない、させない、核を使用しない、差別しない、風化防止のために学んだ事を伝えていく、誰もが幸せで安心した世界になるようにするために、まずは身近な家族や友達、職場や労働組合の仲間との会話の中で、学んだ事を少しでも伝えていく事、また今の時代はボタンひとつで自分の意見等をパソコンやスマホで世界に発信できるという文明の利器を活用し発信していく事も重要だと思いました。私が義務教育の時は長崎へ、私の子供世代は沖縄への平和学習、いつの時代にも修学旅行で平和学習がある様に現地で身をもって聞く、知る、感じる事が大切だと感じました。今回ピーススクールに参加させていただき、さまざまな平和課題に触れる事ができ、また参加者の皆様にも恵まれ楽しく学習する事ができました。ピーススクールとは、みんな笑顔でピースして写真を撮る時のように楽しく学習できる場であると勝手に解釈しています。ありがとうございました。

#### 岡山県平和・人権環境労組会議 高本 和寿

私は、教職員として勤める中、「本当の平和とは？」ということのを常に自問自答しており、時には児童生徒へ問いかけることもありました。学校現場では、教科書や本、時事ニュース等で情報を集めていたつもりでしたが、ピーススクールのお話を聞く中で、「本当に大切なこと（情報）は、表面に出ていない」ということが分かりました。だからこそ、このような貴重な内容を学ぶ機会をいただいたことに、本当に感謝しております。「命を中心に考えれば、全ての大切なことが見えてくる」という言葉に、私は非常に心を打たれました。正直、自分が平和センターに関わっていることは、本当に世の中のためになっているのか、自分のためになっているのかと疑問に思う時もありました。しかし、「命」を中心に考えると、平和フォーラムや岡山県平和センターが行っている活動は本当に意味のあることだと思いました。今までもこれからも、私の目標は「世界平和」です。そのために自分ができることを一つ一つ行っていく予定です。今後のピーススクールの益々の発展を祈っています。準備から当日の運営まで、大変お世話になりました。ありがとうございました。

#### 日本教職員組合 村山 隆行

私が最も大切にしていきたいことは、命や人権だ。1人1人が大切にされる世の中にしたい。誰かの命を守るために、誰かの命や人権が大切にされない世の中にしたくない。このような思いをより確かなものにできたピーススクールになった。

それは、戦争、原発、海外にルーツがある人、性的マイノリティの立場にある人への差別など、どの

人権問題においてもいつも犠牲になるのは立場の弱い人であり、労働者もそうであることに気づけたからである。

このような強い思いを持ちつつも、相手が自分と違う考えをもっている対立するのではなく対話を通して、共闘できるようになりたいと考えた。それは、(自分の)正義の反対は、相手の正義なのだ気づけたからだ。相手の考えがいくらおかしいと私が思っても、相手はおかしいことを言っているとは思っていない。「自分の考えが正しい。」と感じているはずだ。だからこそ、自分の考え方が正しいのか絶えず振り返ることを欠かさないようにしながら、相手を言い負かすのではなく、味方にすることができるとなりたい。しかし、それは簡単なことではない。学習し、知識を得たことを文章にまとめたり、実際に発言したりして、自分の中をくぐらせて、どう伝えることでより自分の思いを伝えることにつながるのか、相手の考えを揺さぶることができるのか考えていきたい。

このように弱い立場である私たちがつながり、1人1人が行動を起こして大きな波を起こしていかななくてはならないと思う。そのために、私は今日から1人1人が大切にされる教室、学校をつくっていきたいと思う。

#### フォーラム平和・三重 佐藤 準也

平和や反核、人権問題について3日間にわたって勉強できた貴重な機会でした。特に原発については、普段生活している中で電気代が安くなるなり、環境への二酸化炭素の排出が抑えられるなら積極的に使うべきなのではないかと考えていましたが、講演や最後のディベートで知識を深めていくことで、災害時のリスクや原発周辺に住む住人の人権問題を考えると、必ずしもそうではないのだと考えるきっかけになりました。また、懇親会など参加者同士で交流ができる場を積極的に設けていただいたおかげで、個人的に全国の組合の方と話し、自分の悩みであった自組織の若年層の組織拡大についてヒントを得ることができ、本当に参加してよかったと思える素晴らしい勉強会になったと思います。今回得た平和や組織拡大の知識を組織に持ち帰り、多くの組合員が平和について考えるきっかけを作っていきます。

#### 東京平和運動センター 村松 礼啓

今回のピーススクールに参加をし、普段なかなか学ぶことの出来なかった「憲法」や「平和」、「外国人技能実習制度」など多くのことについて触れることが出来ました。これらが抱える課題について、グループワークを通じ、多種多様な意見と見解を知れたことは、大きな財産となったと思います。そのこと



ことから、私は現在、労働組合の業務に携わっているので、労働組合が果たすべき「社会正義」の役割について改めて考えるようになりました。経済格差、戦争など、現代社会は多くの問題を抱えており、その問題解決を力強く行うことが出来るのは、労働組合だからこそ出来ることであり、労働組合だからこそみんなの声と力を一丸にして取り組んでいかな



ければならないと思います。非常に多くのことについて学ばせていただいた良い機会となりました。今回の経験を糧に、今後の活動に取り組んでいきたいと思っています。

#### 香川県平和労組会議 大西 竜郎

第五福竜丸の話など知らないことが山ほどあった。私自身香川県で護憲団体の事務をしているが、まだまだ知識が足りていないことがよくわかった。原発に関して、新エネルギーへの投資をせず、原子力に頼り切った結果が東日本大震災での原発事故。本来であればそのような事故があった場合、即座に政府が発電の手法を変えていくように動かなければならない。今我々がすることは徹底的に原発反対を訴えていき、それに代わる発電方法を提示していくことではないだろうか（海外の例を参考に）

## 第5グループ

#### フォーラムひょうご 森 哲二

急遽参加することとなり、対象年齢層からも大きく外れているので場違いではとの思いで参加しましたが、多彩な内容と講師陣。参加者のディスカッションを大切にされた運営で大きな学びの場となりました。このような系統的な学びの場は、地方組織では難しく平和フォーラムだからこそできるもので大変意義のあるものと感じました。特に、2日目の人権課題は、大変参考になりました。それぞれの人権課題を学び、みんなで話し合うことで、別々に捉えるのではなく、一人ひとりの尊厳を大切にしていけることを確認することができました。いま、差別や偏見、平和の不安定な状況などを考えた時、自分たちの無力さを感じることがあります。今回のセミナーに参加し、「命」というキーワードで私たちが考え行動することが政治や社会を変えていく力を作り出すことができるということを確認することができました。

#### 高知県平和運動センター 中山 希望

体力的な面で言えば、3日間で憲法、政治、原爆水爆、難民問題、在日差別、LGBTQ+の課題を網羅的に学ぶ、しかもフィールドワークと座学付きというハード極まりないスケジュールでクタクタでした。しかし、憲法や政治については新たな視点で考えるきっかけになり、その他の課題については初めて知ることばかりで「知ったふり」をしていた自分のこれまでのふるまいを猛烈に反省した次第です。



最終日に模擬討論を行いました。主義主張の違う相手とどう「議論」していくかが今回のスクールのテーマである「次の世代につないでいくか」のきっかけがあるように感じました。ピーススクールの後に官邸前の19日行動に参加しました。ある参加者の「パレスチナ問題は構造的な差別の問題。この問題に真っ先に連帯を表明してくれたのが同じく構造的な差別と痛みを晒され続けていた沖縄、在日朝鮮人、被差別部

落の人たちだった」という言葉にこの 3 日間で学んだことが重なりました。同じように痛みを抱える人たちと一緒に怒り、寄り添えることが平和運動だ、と思わず涙がこぼれました。

#### 東京平和運動センター 黒澤 恒士

色々な方からの講演や、ディベートに参加したことによって今まで知らなかった史実や価値観・考え方に触れることができ、自身の今後の組合活動の糧になったと感じています。特に印象に残っているのは「戦争・軍事行動は、政治の失敗を意味している。政治に求められるのは、戦争の準備ではなく戦争をしないための外交努力だ」というフレーズです。戦争を求めるのは国民ではなく国であり、被害を受けるのは立場の弱者なので、国の暴走を止めるための憲法の重要性を改めて実感しました。そして、今回のような学習会があることを他の人に知ってもらい、参加してもらうためには、見聞したことを自分の言葉で語れるようにすることが大事だと感じました。なぜならば、戦争の経験者が減っていく中で、後世に戦争の悲惨さを残すためには、話を聞いた人が自分で考え、自分の言葉で語れるようにしなければ自分自身の理解が深まらず、うわべだけの話になってしまうからです。

#### 広島県平和運動センター 細谷 京平

ピーススクールに参加し、「憲法」や「政治闘争」、「様々な人権・平和問題」を学習しましたが、その中で心に響いたのが、「連帯の輪を拡げる重要性」と「一人ひとりの人権を大切に、自分らしく生きられる社会を築く大切さ」でした。身分や民族、性別、思想など私達それぞれに違いがある中で、多数派や権力者が優遇され、少数派や弱い立場の人権をないがしろにされる社会が、今もなお日本に存在しています。核や原発の問題や在日コリアンをはじめとした外国人の人権問題、LGBTQ の課題など幅広い人権・平和関連の問題が山積していますが、今の政治は利権や権力者への配慮に囚われ、根本的な解決に取り組む姿勢が見られない現状に、改めて憤りを感じました。やはり、当事者だけの問題ではなく、連帯の力を結集し、世論を動かすことで、政治の流れを変え、「人権・平和・民主主義」が尊重される社会を築く必要があると感じました。今回学習したことを自分の構成組織内で学習会等を通じて共有を図り、各種行動に繋げる役割を担っていきたいと思います。

#### 日本社会主義青年同盟 新田 康博

初めてピーススクールに参加し、諸都合により 2 日目の午後からの合流になりました。初日の憲法・政治の講座や 2 日目午前中の核廃絶・原水禁運動についての講座が聞けなかったのは残念でしたが、それ以降の外国人技能実習制度の問題や在日朝鮮人の訴え、LGBT・SOGI の問題についての講座は考えさせられる事がありました。



外国人技能実習制度の講座を受けて、その実体についてこれまで知る機会はありませんでした。今回、講座の中でいかに場当たりの「受入れ」で「技能実習」とは名ばかりの「奴隷」制度的な環境で働かされているというのを知ることができました。時給 300 円程度の賃金実体、恫喝まがいの指導、不要と判断されたら強制帰国・・・全ての外国人技能実習生がこのような状況であるとはいえないけれども、このような環境下で働く事で何が得られるのだろうか、日本で働き学ぶことへの不信感は無いのだろうか、

日本人の他国人への排斥感（いわゆる在日に対するヘイトや、他地域・国からの移住者に対するムラ意識）も根底にあるのではないかと感じました。労働者としても、一個人としても、このような環境下で働かされているという事実を知り、恥ずかしさと怒りを感じ、これからの社会を考えた時に必要な、様々な人種や考え方を活かす「共生社会」のありかたについて考えさせられました。

#### 全日本自治団体労働組合 内田 尚子

ピーススクールで一番心に残っているのは、第五福竜丸についてです。これまで、いろいろな人権問題の研修会や平和のための活動に参加してきましたが、第五福竜丸をテーマにしたものは初めてだったからです。特に、被害を受けたマグロ漁船そのものが展示されていることに圧倒されました。また、展示館に小学生や中学生からの千羽鶴が捧げられていたのが印象的でした。この展示館で来館者は放射能の恐ろしさについて学び、再び惨事が起こらないようにという思いを強くしているのだと感じました。私もこの展示館に仲間を連れて再び訪れ、自分が感じた同じ思いを伝えたいです。3日間のピーススクールでは、いろいろなテーマの講演を受講することができました。講師は、最前線で活動されている方や当事者の方で、それぞれの問題の現状の深刻さが伝わってきました。今回学んだことを自分の周りでも共有し、少しでも多くの人に広げていきたいと思っています。

#### 長野県平和・人権・環境労働組合会議 間宮 正博

自立した個人と組織、当事者亡き後の継承、他者にどう伝えられるか、簡単には答えの出ない問いを前に過ごした3日間でした。震災後、原発事故の影響を受ける方の支援に関わってきたのですが振り返ると、当事者の子どもたち、親御さんの言葉、存在に動かされてきたように思います。当事者の方に個人として出会うことは大きく、元の世界には戻れなくなるのかも知れませんが、今回の参加して、この社会には様々な困難にある当事者がいて、全然平和ではないのだと思い知らされました。同時に、私という個人と生活、仲間を大切にすることが土台としてあり、その先に隣人へと想像力を向けることが可能になるのでは、持続性のある行動ができるのでは・そんなことを思い巡らせる時間にもなりました。伊藤弁護士の憲法は自立した個人を応援してくれているという言葉は、この社会のなかで、どうも生きづらかった自分にとって大切なものになりました。参加できたことに感謝です。

## 第6グループ

#### 三多摩平和運動センター 大倉 嘉雄

今回初めてピーススクールに参加させていただきました。初めての事なのでとても緊張しました。初日から講座と中々ハードだなと覚悟していましたが最初のアイスブレイクで緊張がほぐれたかなと思います。しかし講座の中身は難しい内容もあり面食らった部分もありました。しかし自分が経験してきた事、全く触れてこなかった事に触れて大変刺激を受けました。色々と考えさせられました。3日間自分が取り組んできた事以外に新しく学んだり見聞きしたりした事が大変多く正直自分の中にどれくらい落とし込めるのかは不安ではありますが今回の学びが生きるように努めていきたいと思いました。また3日間初対面から行動し全く自分とは違う業種の方々との交流はとても新鮮であり色々な話をして仲良く過ごす事ができました。最後に3日間ともに過ごした6班の仲間に感謝いたします。

## 岡山県平和・人権環境労組会議 島岡 夏輝

ピーススクール最終日におこなった、脱原発や組合運動の政治・平和運動への積極的な参加に対して賛成・反対に分かれてディベートを行ったことがとても印象的でした。普段は当然のように賛成の立場でしか物事を考えていなかったため、改めてなぜ賛成なのか、なぜ反対なのかという理由を考えることにより、脱原発や政治・平和運動などを推進していくことの大切さを実感しました。

## 広島県平和運動センター 森 彰紘

ピーススクール全体を通して強く感じたことは「個人」に目を向け、双方で理解しあうことがいかに大切かということです。多くの方はつつい自分と相手を無意識にグループ分けし勝手な印象や先入観から相手を理解しようとする意識が欠けてしまうことがあります。実行委員の方の発言にもありましたが「正義の反対は悪ではなく、相手の正義」という言葉には非常に納得させられました。自分たちの主張や考え方は自分たちの立場にとっては正論であるとは思いますが、なぜ相手方は自分たちの主張が受け入れられないのか、どこに考え方の違いがあるのか、これを双方が理解し合い、戦争や暴力などの「力」による解決手段を取ることなく着地点を探すことが非常に大切なことだと思いました。今回学ばせていただいたことを自分たちの身近な組織に置き換えたときに、自分に何ができるのかを考えながら、「個人」に目を向け、一人一人に寄り添いながら業務並びに組合活動に従事したいと思います。

## 佐賀県平和運動センター 前田 梨恵

今回、様々な問題について幅広く学ぶことができたとともに、知らないことの方が多いと感じました。伊藤真さんの講義の中で、「軍事力を増強しても何の解決にもならない。戦争をはじめないことが一番重要である」という言葉はその通りだと思いました。戦争や核兵器で解決できることは何もないと思います。また、LGBTの講義について、このように基礎を学ぶことは重要なことだと感じました。私は友人に当事者がいます。その子から「受け入れてくれなかったら、誰にも言うことなく隠れて生きていたと思う。」と言われたことがあります。今回の講義のように、学び理解してくれる人が増えることが、当事者が生きやすい世界を作る第一歩になるのではないかと思います。19日行動にも参加させていただきました。多くの方が参加している中、年配の方が多く若年層がほとんどいないことに気づきました。若者こそ、他人事ではなく自分事であると考え、行動していくべきだと思います。今回、ここで学んだことや考えたことを今後そのような形で組合に役立てていくのかを、しっかり考えていきたいです。

## 全農林労働組合 佐藤 恵太

今回、ピーススクールには組合役員から勧められ初めて参加しました。ピーススクールでの講演を聞き、改めて平和であることの重要性に気づかされました（後日、国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑に行き戦争で犠牲になった戦没者に手を合わせてきました）。また、技能



実習制度問題、在日朝鮮人問題や LGBTQ+などの人権問題については、私たちが生活する上で身近なところに様々な課題があることを知りました。一番印象に残った講義はリ・ソナさんの講義です。おそらく、ご自身の経験されたことなどを自分の言葉でお話されているので、一番受け手の心に響くのではないかと思います。また、在日朝鮮人の方から講演いただいたことが今までなかったため、非常に刺激を受けました。全ての講義に共通する『強者による強者のための強者の社会』によって犠牲になるのは常に弱者・労働者であり、一人の力では変わらないかもしれないけど、一人のアクションがきっかけできっと何か動くことがあると感じました。学習は少し難しいと感じましたが、3日間で知ったこと・学んだこと、同年代の全国から集まった多くの仲間と深めた交流を通して、今後の組合活動にいかしていきたいと思います。

### 平和フォーラムしまね 隅岡 翔太

講義を8つ受け、どれも勉強になるお話でした。憲法改正については、一番身近な平和を脅かす課題ではありますが、敬遠しがちな課題だったかと思います。ですが、講師の先生がとても論理的に順序だてて説明いただいたので理解が深まりました。2日目は人権課題が大きなテーマだったかと思います。人権やジェンダーに対しては、普段の生活で自分でも気づかないうちに人を傷つけてしまうこともあるかと思います。その中で、外国人労働者の方については、地元にもたくさんおられますが、私たちの見えないところで冷遇を受けていることも目をそらしてはいけない課題だなと改めて感じました。原水禁の話に関しては、正直言うとわかりませんでした。予備知識がある方はわかる話だったかと思いますが、初心者向けではないように感じました。今回、学習した内容を「わからないことがわかった」とか「勉強になった」と振り返る方は多いかと思いますが、これをどう”行動”に移すかが一番大事だと感じました。また、行動の先にどれだけの人を巻き込んだかの”数”も求めていくべきだとも考えます。自分の決意表明も含めた感想とさせていただきます。大変ありがとうございました。

### 日本社会主義青年同盟 齊藤 慶

憲法、政治、反核、人権といった諸課題の講演を受け、日本の現状が決して平和ではないことを強く感じました。過去に差別と人権侵害の歴史を繰り返してきた日本が、現在もその歴史を繰り返していること、個人を尊重できない社会に問題があるにも関わらず、社会に目を向けられない現状があること、いずれも、子どもたちが受けている教育で事実が隠され、社会に出ても過剰労働で疲弊し、学びと考える時間を奪われている社会的な合理化攻撃だと気づかされました。本来の役割ではないと言う方もいるとは思いますが、労働組合がまなぶ機会づくりをしなければいけない時代なのだと感じます。嫌悪されがちな平和闘争ですが、平和の礎の上に労働運動が成り立つものであり、労働者同士の分断を無くし、



職場内の平和を確立するためにも、平和闘争を社会運動としていかなければならない、そのためにも労働組合が社会運動の先頭に立ち、平和をまなび、平和な社会を創りあげていきたいと思っています。

# 実行委員ディベートまとめ

## 【テーマ1】「安全保障に関する防衛力の強化」

報告者 川原 一知（全水道）

第2グループが強化に賛成、第3グループが強化に反対の立場でディベートが行われた。

賛成派は、日米安保について「今のアメリカが日本を守ってくれるのか？」という疑問があり、自国を守る力は必要であると訴えた。



また、兵器を自国開発できれば日本の技術力向上にもつながり経済効果も期待できることや、ロシアのウクライナ侵攻で原発が標的となったことや尖閣問題を例に、他国に攻められることに対する一定の抑止力は必要との主張内容だった。反対派は、「防衛力強化」は憲法9条に違反することや、日本が防衛力を増強すれば近隣諸国との終わりのない力比べが始まる。その影響で税負担が増え国民は不幸になることや、軍事力に頼らない平和的外交による解決が必要だと訴えた。

賛成派の主張に対して、日米安保が守られないなら破棄すべき、兵器開発の予算は他に回せば日本はもっと豊かになる、などの反論があった。反対派の反論に対しては、日米安保破棄は周辺国との関係ですぐには危険、徐々にシフトすべきであることや、対話で解決するにしても相手と同じ土俵に立たなければ交渉は成立しないこと、兵器を自国生産することで費用抑制につながる、などの反論がされた。

このやり取りは、まさに政治の世界で議論されている内容だが、各グループは相手の主張や反論を予め予測しディベートに臨んでおり、その姿は非常に頼もしく映った。現実とは違い、一方的に反論し相手を論破することではなく、相手に対し敬意を払い主張について聞く耳をもち、理解を示した上で討論し正しい道を探ること。参加者が示してくれたこの姿勢こそ、今の日本に必要なことと感じさせられた。

## 【テーマ2】「原発問題」

報告者 橋本 勇介（自治労）

第1グループが原発推進に賛成、第4グループが反対の立場でディベートが行われた。



反対派は、①放射性廃棄物の処理について具体的な処理方法が決まっていないこと、②原発事故が起こった時の危険性が高いこと、③（福島キャラバンの参加者より）被害者から「原発はいらない」という声があったことなどを挙げ、何よりも命が大事ということから原発反対を主張した。

賛成派は、①安全な暮らしを支えるためには安定した電力供給が必要なこと、②再生可能エネルギーではかえってコストがかさむことからコスト面でも原発が必要なこと、③原発立地地域の労働者の雇用や賃金を確保する必要があること、④再生可能エネルギーの施設がかえって環境破壊を起こしている実態もあることなどから、原発の優位性と必要性を訴えた。賛成派の「再生可能エネルギーは環境破壊を

引き起こす」との主張に対し、反対派は放射性廃棄物の環境への影響の問題点を指摘。反対派は、放射性物質は半減期を迎えれば無害になること、ソーラーパネルの処分方法についても課題がありそれぞれリスクがあると反論した。

その後も、電気料金、福島第一原子力発電所事故をはじめとした原発事故のリスク、労働者の雇用・賃金などの課題について討論がされた。

### 【テーマ3】「労働組合の政治活動・平和運動積極参加」

報告者 角田 達夫 (日教組)

ディベートの3つめは「労働組合の政治活動や平和運動を積極的に参加することについて賛成か反対か」について行いました。これに賛成派は、「労働条件の改善や働く私たちが生活者として生きやすくなっていくためには政治にかかわらざるを得ないことから政治活動への参加は欠かせないし、平和活動も平和があってこそ私たち市民が生活できるため、労働組合の責務である」として必要と述べました。一方、反対派は「積極的に政治や平和に取り組むべきではなく、本来は交渉で労働環境や賃金の改善に向けて取り組むべきである。また、組合員一人一人の多様な考えを1つにまとめるべきでもない」として反対しました。

議論の中で「労働組合の責務」という言葉がでてきましたが、労働条件、賃金の改善はもちろん、平和、人権の課題にとりくむこと自体は賛成、反対派の両派ともに、これらに取り組むことは責務だとしました。今後の組合活動にこのディベートを通して、責務を感じながら、自分の言葉で今回学んだことをそれぞれの組織で伝え、とりくみを進めてほしいと思いました。



ディベートとは

- ① グループで話し合い、テーマを（自分の考えと異なることもある）を選択。
- ② 必要か不要か、その理由や根拠をグループで話し合う。また、相手に対する反論も考える。
- ③ 最初にそれぞれの主張を2分間で述べる。その後は、相互で意見のやり取りを行う。
- ④ 終了後、どちらが優勢だったかを拍手で決定する。その後、感想などを伝えあう。

報告動画はこちらから



## 「平和フォーラム 2023 ピーススクール」報告集

編集・発行：フォーラム平和・人権・環境（平和フォーラム）

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11 連合会館内

TEL : 03-5289-8222